

# 「第7偵察隊 増強改編！！」

昨年8月の異動から迫撃砲分隊の人員が増強されて以降、9月には新隊員が約20名、令和6年3月の定期異動で15名の新戦力が配属されるとともに、戦車、APC、小型が増強された。また隊独自に、各戦闘偵察小隊に訓練陸曹を配置するとともに、情報訓練には、第11普通科連隊から火力調整幹部（早坂2尉）を迎え、火力調整機能を強化された。

そして、令和6年3月21日、隊員総数約200名となり、増強改編を完了した。




ななてい

発行  
第7偵察隊  
OB会

「増強改編と今後の方向性」  
第七偵察隊長

二等陸佐 古井 仁志

令和五年度末、戦車、小銃及び迫撃砲の各分隊が各々増強されるとともに、隊独自の施策により隊本部総務班及び火力調整機能の新設、並びに戦闘偵察小隊の本部機能の強化を図りました。これにより、平素の業務や教育訓練を効率的に行うとともに、より第七偵察隊らしい幅広い任務遂行が可能になるものと思えます。この際、全国各地から多くの隊員や新隊員が転入するとともに、元第七偵察隊員も復帰し、非常に活気溢れた状況にあります。

一方、これまで陸自唯一の戦闘偵察部隊であった我々以上に編成・装備が充実した「戦闘偵察大隊」が全国各地に続々と編成されています。それら部隊と比較すると、各種機能や人員数が脆弱であるため、我が部隊の隊員の皆さんの苦労は大変なものと感じております。このため、一般の戦略三文書策定に伴う防衛力の抜本的見直しを捉え、将来において益々期待される部隊となるよう引き続きの体制変化に向けた努力をしまいたいと考えております。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いたします。



## 「前任上級曹長交代」第5代 大島准尉下番、第6代 木村准尉上番

「前任上級曹長に上番して」

隊本部 准陸尉 木村 幸樹

この度、令和六年三月二十九日付で、第六代第七偵察隊前任上級曹長に上番した木村准尉です。歴史と伝統ある第七偵察隊の前任上級曹長に上番できて大変光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いです。

前任上級曹長の役割は、大きく指揮官の補佐、隊員の育成、伝統の継承となりますが、昨今の自衛隊を取り巻く環境は複雑なため、複数の正面を同時に抑える必要があります。国内では部隊の新編、改編が、そして頻発する自然災害に対する備えが重要であり、国外では日本周辺をロシア、北朝鮮、中国の軍事活動が活発になっております。

そんな中で自衛隊が、七偵がすべきことはそれらに対して「隙」を見せず、即応態勢を整えつつ訓練を積み重ねて日本の抑止力としてあり続けることに尽きます。隊員に基本基礎を徹底し、適切な服務指導を行うことで公私に「隙」の無い隊員を育成していきたいと思えます。

併せて今を生きる七偵の隊員として歴史と伝統を継承し、次の世代に引き継ぐことに尽力します。どうぞ皆さまこれからもご指導・ご鞭撻をよろしくお願いたします。

